

2023年度 成蹊大学
「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

2024.2.20 全学教育運営委員会

2023年度 成蹊大学「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点により精査した結果を示す。

- ・ 評価日：2024年2月20日
- ・ 評価組織：全学教育運営委員会
- ・ 評価対象：2023年度「データサイエンス入門」の取組

- ・ 評価基準【S・A・B・F】
S:計画・目標以上の成果を上げられた。
A:計画・目標どおりの成果を上げられた。
B:計画・目標どおりではないが、ある程度成果を上げられた。
F:計画・目標とした成果を上げられなかった。

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	令和5年度においては本プログラム履修者196名（経済学部31名、経営学部36名、理工学部108名、法学部14名、文学部7名）のうち、経済学部で24名、経営学部で27名、理工学部で88名、法学部で11名、文学部で7名の計157名が本プログラムを修了した。（令和4年度は履修者180名、修了者150名）「データサイエンス入門」単位取得者には、令和5年度より本教育プログラム修了者としてオープンバッジによる修了認定証を授与する予定。	A

2023年度 成蹊大学 「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
2. 学修成果	<p>学期ごとに実施する「授業評価アンケート」の調査項目のうち、「データサイエンス入門」における、「シラバスに記載された到達目標を身に付けられましたか。」の項目から、「身に付けられた」が33%、「やや身に付けられた」が53%であり、「どちらとも言えない」が14%、「あまり身に付けられなかった」及び「身に付けられなかった」は0%であった。</p> <p>また、「授業の内容への興味が増し、さらに深く学びたいと思いましたか。」の項目から、「そう思う」が48%、「ややそう思う」が38%であり、「どちらとも言えない」が14%、「あまりそう思わない」及び「そう思わない」は0%であった。</p> <p>以上から、学修成果は高かったといえる。</p>	A

2023年度 成蹊大学 「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学期ごとに実施する「授業評価アンケート」の調査項目のうち、「データサイエンス入門」における「この授業の内容をよく理解できましたか。」の項目から、「理解できた」が38%、「やや理解できた」が43%であった。一方で、「どちらとも言えない」が19%、「あまり理解できなかった」及び「理解できなかった」が0%となり、大方、学生の内容の理解度は高かったといえる。	A

2023年度 成蹊大学 「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムを履修した学生に対して、「勧めたい」「どちらともいえない」「勧めたくない」の3つの選択肢で回答するアンケートを実施したところ、回答学生の90%が本科目を他の学生、または後輩に勧めたいと回答している。勧めたい理由として、「教養として身に付けておくべき内容が多いと感じた」「データサイエンスの活用事例を複数の専門講師から聞くことができる」等、授業内容に対する満足度が高いことが伺える。勧めたくないと回答した学生はおらず、履修生による口コミでの推奨が期待できる。	A

2023年度 成蹊大学 「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムの修了者には、データサイエンスの基礎的な知識と技能を修得した証明として、オープンバッジを発行し履修生が学内外で自己アピールに活用できるようにしている。また、本教育プログラムに該当する「データサイエンス入門」は、本学副専攻制度のコースの1つである「データサイエンス副専攻」の修了必須科目に設定している。データサイエンスに興味を持つ学生が身につけるべき教養科目として、文理問わず多くの学生に履修を推進しており、他のデータサイエンス教育科目でも本科目の紹介を行うなど、学内でのPRを積極的に実施している。令和6年度には、履修者数の向上のため、開講クラスの増加を予定している。</p>	A

2023年度 成蹊大学「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
6. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和2年度の入学生から設置されており、令和5年度にプログラム修了者の卒業生が出る予定である。本学では、卒業生の進路調査「成蹊大学卒業生調査」を実施している。「成蹊大学卒業生調査」は、大学IRコンソーシアムが企画し、会員校である本学でも令和2年度から開始した調査で、卒業して3年目、5年目、10年目のOBOGを対象としたWebアンケートであり、本プログラム修了者の進路先や活躍状況の把握を実施する予定である。	N/A

2023年度 成蹊大学「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
7. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムである「データサイエンス入門」では、データ・AI利活用の動向を学修するため、社会の各分野でデータサイエンスを活用して研究や仕事を進めている複数の専門家を講師としたオムニバス形式の授業を取り入れている。オムニバス講義では、一部、民間企業での業務経験を有する専門講師による事例や仕事内容の紹介を実施しており、履修者と講師間で活発な意見交換を行う機会を取り入れている。また、専門講師には講義後に履修者からの感想やコメントをまとめたものをお渡しし、講師の視点から授業内容や履修者の理解度等に関するフィードバックをいただいている。	A

2023年度 成蹊大学「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

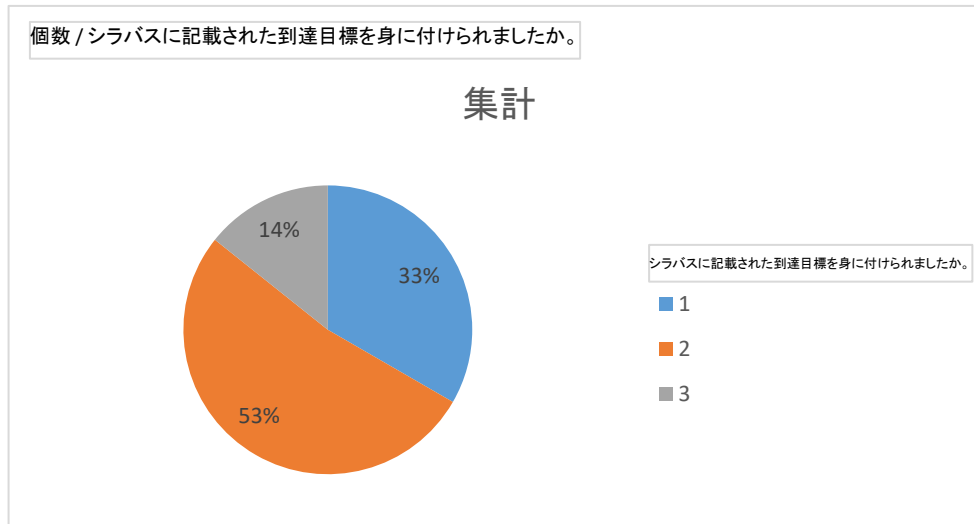
自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
8. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムである「データサイエンス入門」は、文系理系を問わず全学部生を対象とした科目である。数式は極力使わず、データサイエンスにより興味を持ってもらえるように身近な事例や実データの分析などを取り上げている。また、各分野でデータサイエンスを活用している複数の専門講師を招聘することで、履修生はデータサイエンスと融合する様々な分野に触れることができるよう工夫している。授業アンケートでは、履修生から「いろいろな分野の事例を知ることができて面白かった」「データサイエンスにより興味を持つきっかけとなった」等のコメントが多くあった。	A

2023年度 成蹊大学 「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」に関する自己点検・評価

自己点検・評価の視点	取組と評価	評価結果
9. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	本教育プログラムである「データサイエンス入門」では、社会におけるデータサイエンスの動向を踏まえつつ、履修者がどの分野に興味を持っているかアンケート等で意見を集め、オムニバス講義において学生の興味や感心の高い分野で活躍する専門講師を招聘することを検討していく。また、ICTの活用や動画教材の充実を図り、履修生にとって「分かりやすい」授業となるよう関連する教員や専門講師の意見等を参考に全学教育運営委員会において継続的な授業の改善・見直しについて検討を行っていく。	A

2023年度「DS入門」到達目標

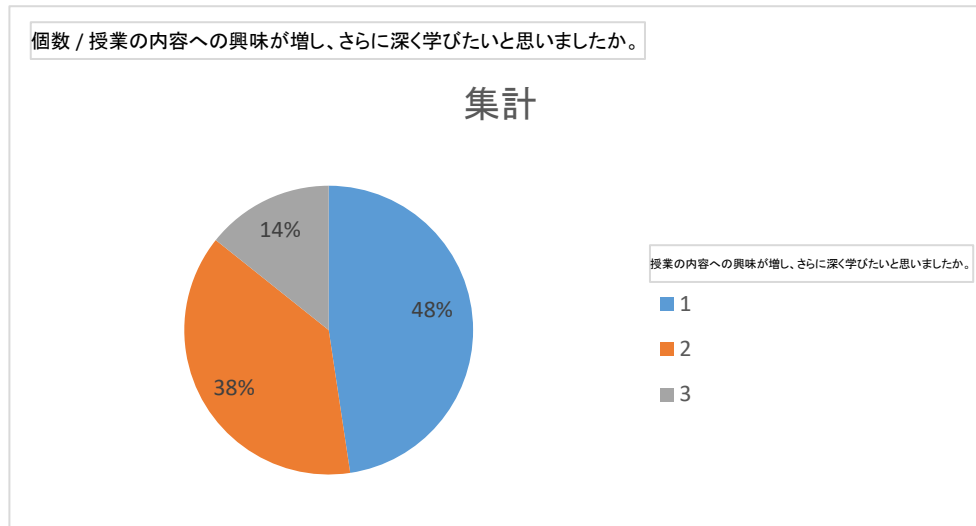
行ラベル	個数 / シラバスに記載された到達目標を身に付けられましたか。	
1		7
2		11
3		3
総計		21



1:身に付けられた 2:やや身に付けられた 3:どちらとも言えない 4:あまり身に付けられなかった 5:身に付けられなかった

2023年度「DS入門」授業の内容への興味

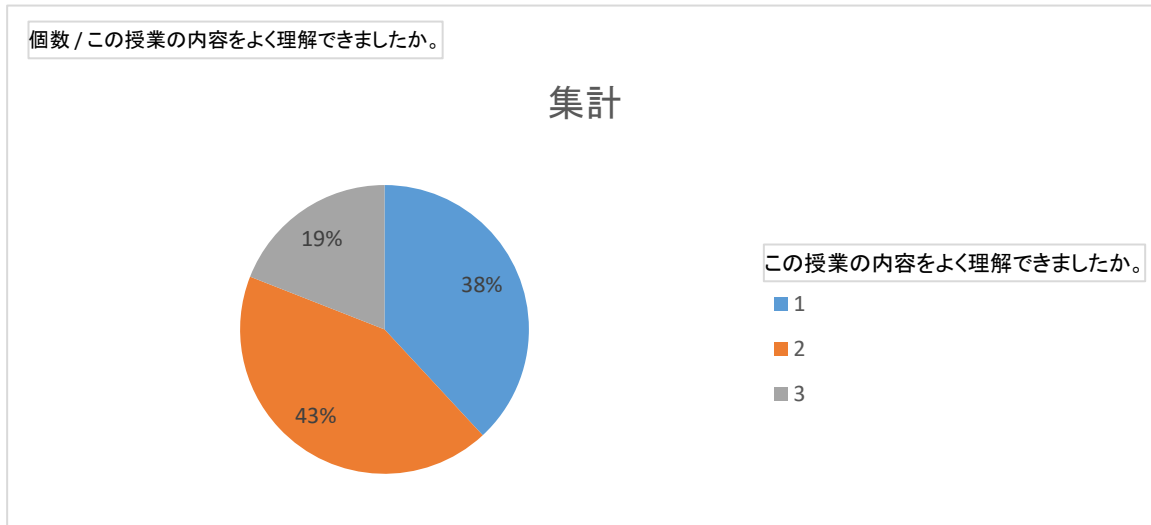
行ラベル	個数 / 授業の内容への興味が増し、さらに深く学びたいと思いましたが。
1	10
2	8
3	3
総計	21



1: そう思う 2: ややそう思う 3: どちらとも言えない 4: あまりそう思わない 5: そう思わない

2023年度「DS入門」授業内容理解

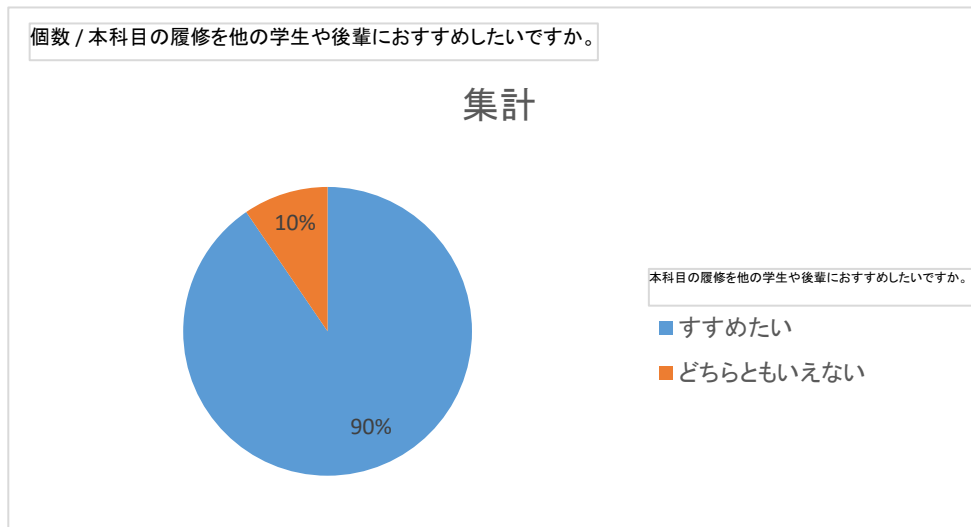
行ラベル	個数 / この授業の内容をよく理解できましたか。
1	8
2	9
3	4
総計	21



1:理解できた 2:やや理解できた 3:どちらとも言えない 4:あまり理解できなかった 5:理解できなかった

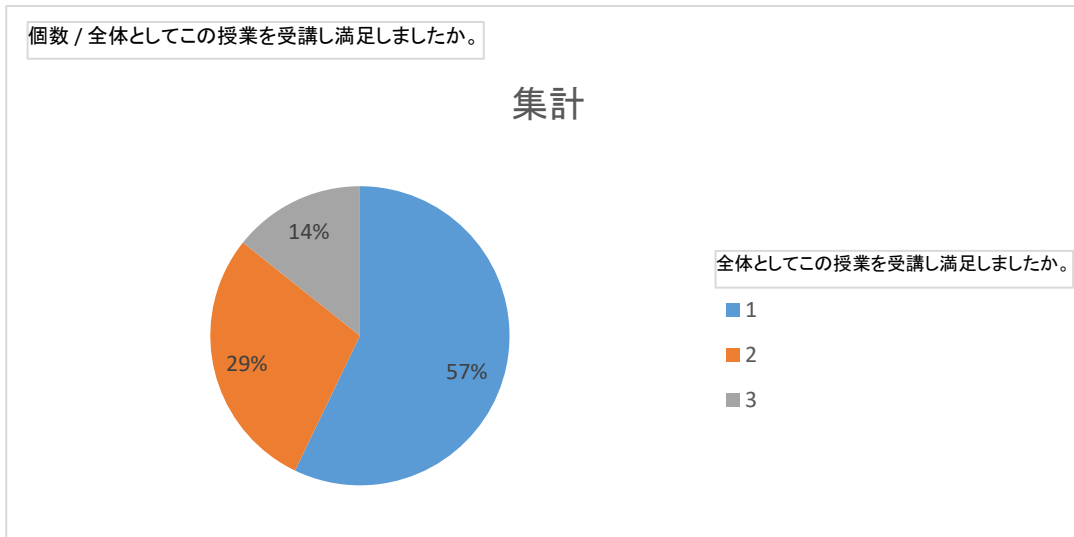
2023年度「DS入門」後輩等他の学生への推奨度

行ラベル	個数 / 本科目の履修を他の学生や後輩におすすめしたいですか。
すすめたい	19
どちらともいえない	2
総計	21



2023年度「DS入門」満足度

行ラベル	個数 / 全体としてこの授業を受講し満足しましたか。
1	12
2	6
3	3
総計	21



1:満足した 2:やや満足した 3:どちらとも言えない 4:あまり満足しなかった 5:満足しなかった

3にて「すすめたい」と回答した方:差し支えなければ理由を教えてください。(科目独自アンケート)

普段使われているが自分が知らない技術がたくさんあり、教えてもらえる機会はなかなかないため興味深かった
ゲスト回で各講師が専門知識をしてくれるので、自分が興味を持つ分野が何かわかる。

ITへの興味を持つきっかけになるため

データサイエンスについて深く学べる。

入門レベルなので、文理問わず学べるから

データサイエンスを必要とする人も必要としない人も身につけておくべき内容が多くあると思うから。

現代社会において広く普及しようとしている様々なAI技術について、どのような学科であっても知ることに損は無いと感じたから

データサイエンスがいろいろなところかかわっていて新たな発見ができたから。

今まで触れてこなかった分野のことに詳しく学ぶことができ面白かったから。

様々な専門分野の講師が授業をしてくれるので、多くの知識が得られるから

トレンドであるAIについて、社会における事例を知ることができるから。

本科目の感想を自由に記述してください。(科目独自アンケート)

授業の内容が少しレベルが高いうに感じましたが、ゲスト講師の方も多く来てくださり、全体的に楽しく受講させていただきました。ありがとうございました。

データサイエンスとは何かについて詳しく知れてよかった。

講師の人による特別講義では実際に現場で働いている方の声を聞くことができさまざまな場所でデータサイエンスが使われていることを強く実感できた良い機会だと思った。また、オンデマンドとZoomの併用による授業の為、講義を受けやすいと感じた。

授業において良かった点あるいは改善して欲しい点があれば書いてください。(授業評価アンケート)

ライブ授業役に立ちました。ありがとうございました。

オンデマンドとZoomの併用でとても受講しやすかった。また、講師の方の回ではさまざまなデータサイエンスに関する社会での活用の仕方を学ぶことができ良かった。

半年間ありがとうございました。